

## 2026 年度 社会学部学校推薦型選抜指定校制推薦入学

### 出題意図

本学社会学部の学生には、「異なる価値観や文化、性別など多様な人々と良好な関係を築き、協働することができる」ことが期待されています。学部 4 年間の学びには、「社会で起こっているさまざまな現象や事象」にも敏感なアンテナを張り、「その原因や解決方法について、自ら情報を収集し、的確な対応、判断ができる」ことも必要とされます。そのための能力が現時点でどの程度身についているかを測るために、指定校推薦入試の小論文問題では、以下の点を重視しました。

#### <問 1 >

昨今、若者たちの間にも排外主義的な言説の広がりが見られます。外国人労働者を日本から締め出せという極端な主張も一部には見受けられます。しかし、グローバルな人の移動は、海外から日本への流入【資料 C】だけではなく、日本から海外へと流出するベクトル【資料 A・B】も存在しています。<問 1 >では、三つの資料を比較しながらその内容を的確に理解し、国境を越えた人の移動という社会現象とその背景について、資料内のグラフの読み取りも適切に行いながら、論述をまとめる力が試されています。

#### <問 2 >

外国人労働者をめぐる問題を考察する際には、【資料 D】にあるように、「旅行者や異なる在留資格の人々を混在して印象論的に語る」のではなく「精度の高い議論」であることが重要です。<問 2 >では、【資料 D】の主要な論点を正確に理解し、【資料 A~D】すべてから横断的に読み取れる知見や、それらを踏まえた自身の意見を、適切な語句や表現を用いて、論理的で説得力ある文章でまとめる能力が試されています。